

CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブック
著者がやる気になるために家族ができること
境泉洋／野中俊介(著) 2940円 金剛出版

この度、CRAFT応用の家族向けのワークブックが金剛出版より出版されました。CRAFTはコミュニケーション強化と家族訓練(Community Reinforcement and Family Training)の頭文字で、クラブと通称されています。

本書は、高い治療効果を目指しているCRAFTをひきこもりにアレンジしたものです。CRAFTのひきこもりへの応用は、厚生労働省のガイドラインでCRAFTが紹介されたことを契機に、少しずつ広がりを見せ、埼玉やきの会でも実践が行われ、9月17日、18日には本部にて実施者養成の研修会が開催されました。公的機関でも導入が始まっています。

ひきこもりからの回復においては、ご本人のやる気が必要です。CRAFTを行うことで、ひきこもり当事者とのコミュニケーションがとりやすくなり、ご本人が元気になるにつきます。その結果、相談機関の利用、病院の受診、就労の準備などに取



り組む準備が整います。CRAFTプログラムと他の家族支援の違いは、ひきこもり当事者が元気になること、家族関係が改善されることです。従来の家族支援では、家族の気持ちは楽になっても、ひきこもり当事者のやる気、家族関係の改善に至るには時間がかかっていた。こうした、ご家族が最も求めていることを、体系的、具体的に学べるのがCRAFTプログラムであると言えます。本書の出版に先立って、CRAFTプログラムの開発者であるMeyers先生の来日され、東京で開催されたアジアCBTでの講演、徳島で開催された2日半ワークショップが開催された。

ワークショップでは、Meyers先生自身の実演を交えながら、質疑にも多くの時間を割いて頂き、CRAFTプログラムはマニュアル通りに進めるのではなく、治療を拒否している人を大切にするためのプログラムであるという哲学に触れることができました。

月例会に参加して気を楽しにしたり情報交換しませんか

☆親の会(月例会)問い合わせ先(2013年6月30日現在)
NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (池田佳世)
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-4-4
☎ 03-5944-5250 FAX 03-5944-5290

東北・北海道

KHJ 北海道「はまなす」(北郷 恵美子) ☎ & FAX 011-631-0981
NPO 法人岩手県青少年自立支援センター「ボランの広場」家族会(泉 勝夫) ☎ 019-605-8632 FAX 019-605-8633
KHJ 青森県「アップルの会」(川村 克彦) ☎ & FAX 0178-88-5297
秋田県「かだれ会」(長信田の森心療クリニック) ☎ 0185-72-4133 FAX 0185-72-4134
KHJ 宮城県「タオ」(武田 和浩) ☎ 0228-58-4755 FAX 0228-58-4756 ☎ 080-3198-6715
NPO 法人山形県「から・ころセンター」(伊藤 正俊) ☎ & FAX 0238-21-6436

関東ブロック

NPO 法人楽の会リーラ (市川 乙允) ☎ & FAX 03-5944-5730
KHJ 西東京「萌の会」(井手 宏) ☎ 090-8452-8810 ☎ & FAX 03-5397-5372
NPO 法人 KHJ 埼玉けやきの会家族会 (田口 ゆりえ) ☎ & FAX 048-651-7353 ☎ 080-3176-6674
NPO 法人 KHJ 千葉県なの花会 (藤江 幹子) ☎ 090-8491-0971
KHJ 神奈川県「虹の会」(安田 賢二) ☎ 080-2107-1171
NPO 法人 KHJ 栃木県「ベリー会」(齋藤 三枝子) FAX 028-663-5022 ☎ 090-1846-4004
グループコスモス (瓜生 武) ☎ & FAX 03-3728-4488 ☎ 080-3255-4161
KHJ 静岡県「いっぶく会」(上杉 博美) ☎ 090-5036-2552 ☎ & FAX 054-245-0766
NPO 法人てくてく (山本 洋見) ☎ 053-442-6365 ☎ 090-1416-6224

東海ブロック

NPO 法人東海なでしこの会 (大脇 正徳) ☎ 090-4195-2674 ☎ & FAX 052-882-1119
名古屋オレンジの会 (鈴木 美登里) ☎ & FAX 052-459-5116

北陸ブロック

KHJ にいがた「秋桜の会」(三膳 克弥) ☎ 090-4017-2889 ☎ & FAX 025-382-6912
KHJ 北陸会 (所田 澄子) ☎ 090-8092-1097 ☎ & FAX 076-252-4856
とやま大地の会 (山岡 和夫) ☎ 090-3768-1733 FAX 076-429-5886

近畿ブロック

NPO 法人京都オレンジの会 (稲垣 緑) ☎ & FAX 075-752-0289
NPO 法人大阪虹の会 (前川 実) ☎ & FAX 072-265-2021
NPO 法人 KHJ 「つばさの会大阪」(大塚 洋) ☎ 090-4308-4259 ☎ 072-844-2423
KHJ 情報センターふきのとう姫路(櫛橋 行雄) ☎ & FAX 079-224-5259 ☎ 090-5046-7134

中国ブロック

KHJ 岡山きびの会 (中西 茂明) ☎ & FAX 086-955-2857
KHJ 広島もみじの会 (岡本 弘) ☎ 090-7375-6659 ☎ & FAX 082-924-2922
KHJ 山口県「きらら会」(上田 十太) ☎ & FAX 0837-22-5495



・おおよそのSAD(社会不安障害)をチェック可
・どこへ行けば治療して貰えるの?
全国2500ヶ所のSAD対応病院が検索できます。

社会不安障害の総合情報サイト
URL: http://www.sad-net.jp/

無料(通信料は自己負担)

引きこもり電話相談
☎ 03-5944-5720
火・木・土 PM1:00~5:00
第4土曜・祭日休み
「楽の会」



ルポ「ひきこもり」
価格800円
FAX 048(756)7802
行き詰まり、混迷を深める時代の狭間において、何とか活路を見出したいと願う方々に、問題の本質的な解決の方向を提言する書として本書をお薦めします。
推薦のことは
精神科医・医学博士 中垣内正和

旅立ち

NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) 代表 池田 佳世
第70号 発行日 平成25年9月28日 〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-4-4
TEL 03-5944-5250 FAX 03-5944-5290 http://www.khj-h.com
Facebook: http://www.facebook.com/khj.ho / Twitter: http://twitter.com/hikikomori_khj



池田 佳世 理事長

支援センター 整備拡充
厚労省の出したひきこもり対策推進事業の拡充にこう書いてある。
「平成21年度から、各都道府県 指定都市に、ひきこもり本人や家族等からの相談等の支援を行う「ひきこもり支援センター」を整備(平成25

新しいながれの 中核として

全引連 池田 佳世 理事長

年6月現在43箇所設置)しているが、今後にもさらに設置を促進する必要がある。又、ひきこもりに関しては、長期化・高年齢化や、それに伴うひきこもりを抱える家族や本人からの多様な相談にきめ細かく対応できていないのではないかと、当事者による支援(ピアサポート)や訪問などが十分に行われていないのではないかと、等の課題がある。

そのため、地域に潜在するひきこもりを早期に発見し、ひきこもりを抱える家族や本人に対するきめ細やかな支援を神の病から回復した当事者が

が可能となるよう、継続的な訪問支援等を行う、「ひきこもりサポーター」(「ひきこもり家族等の当事者(ピアサポーター)等を含む)を養成し、派遣する事業を行う。」

厚労省では、「現場に学べ」と親の会(家族会連合会)にいる現に困っている家族、苦しんでいる当事者の声を聞くこととしている。私たちの声が小さく、家族もひきこもっている状態では、なかなか声は届かない。カナダでも、精神の病から回復した当事者が



活動状況(2013年7~9月)
7月23日 厚労省 ひきこもり関連担当者会議(池田 伊藤、三膳、上田)
8月2日 静岡県菊川社会福祉協議会にて学習会講師、懇談会(池田)
8月5日 ひきこもりピアサポーター事業打ち合わせ
8月6日 厚労省 荒川統括、日野課長補佐来訪
8月21日 Meyers 博士 空港にて出迎え(境、池田、野中)
8月22日 ひきこもりピアサポーター養成派遣事業 第二回事業委員会
9月1日 なでしこの会、名古屋オレンジの会訪問調査(上田、野中)
9月3日 TBS取材
9月5日 共同通信取材
9月12日 NHK報道部取材
9月17・18日 CRAFT研修会 於本部
9月28・29日 第八回全代研福岡大会
9月29日 ひきこもりピアサポーター養成派遣事業 第二回事業委員会
本部事務局 野中俊介

厚労省「ひきこもり対策推進新規事業」で研修会開催

都道府県、指定都市担当者 134人が参加



藤原 慎一 厚労省 社会援護局総務課長

厚労省は、25年度ひきこもり対策推進新規事業の取り組みを進めるために7月23日、「ひきこもり対策推進新規事業関係都道府県 指定都市担当者会議」を開催しました。厚労省から藤原課長、荒川課長補佐、日野課長補佐ら7人、全国の都道府県担当者134人、横浜市など4団体、KHJから池田理事長、伊藤



理事、三膳(新潟秋桜の会、本部事務局(上田)の4人が参加。
開会挨拶で、厚生労働省社会援護局総務課長の藤原慎一氏は、「ひきこもり問題は、国家的損失である……ひきこもり地域支援センターは、その入口として家族に開かれている……現場の知恵として、行政以外の経験者の立場から、初めて参画をしてもらうKHJ親の会の取り組みを皆さんに

知っていただく貴重な機会であり、「実情を共有し、知恵を共有し、一步一步進んでいくにしたい」と述べられました。
司会進行の日野氏は「KHJ親の会の取り組みを、皆さんに知ってもらい、ノウハウを取り入れてもらいたい、お互い一丸となって、風通しのいい関係、連携を作っていくでしょう」と述べられました。

横浜市と神戸市の事例報告のあとKHJから「ひきこもりサポーター養成研修、派遣事業」を池田、伊藤、上田、三膳の順で報告。
池田代表は「この度の貴重な機会を設けていただいたことを心より感謝申し上げます」とお礼を述べ、伊藤理事は「前奥山代表の頃から、親の会が先駆けて、ひきこもり支援に取り組んできたこと、訪問サポーター士養成について

は、2003年から開始し、10年をかけて、約1000人のサポーターが誕生したが、現在は、マンパワーや財源の確保が難しい状況もあるが、家族が望んでいる支援を日々模索し、続けてきた取り組み(学習会など)が、家族支援に本人支援に繋がり、結果として表れてきている」ことを述べました。
最後に、池田理事長が「親の会は、ひきこもりの苦しみを体験と共によく解っている会であると思います。」

(20頁へ続く)

問題解決への本格的な取り組みへ

どうか、親の会をご活用ください。今後も、各自治体と親の会が、相互に連携協働しながら、家族が本場に望む支援を実現していきたいと思っております。どうぞよろしく



お願いいたします」と心をこめた要請に大きな拍手がありました。閉会の挨拶で、厚労省の荒川課長補佐（福岡大会で来賓挨拶予定）が、ひきこもり支援に必要な（１）人、物、金にノウハウを加えたシステム化を、（２）ひきこもりを持つ家族、経験者によるノウハウ（親の会が果たす意義の大きさについて）、（３）社会問題であるという認識。たらい回しの処理ではなく、問題解決をしていける機能の整備が必要、（４）裏木戸から声なき声を聴いていくアウトリーチの意義（早期発見、早期対応）の４つの課題の提起が

9月に、本部へマスコミ二社の取材

9月に入り、KHJ本部へ、TBS（9/3）、共同通信（9/5）、NHK（9/12）から取材がありました。TBSは「ひきこもりが、どんなにつらいかを掘り下げて番組を作りたい」、NHKは「高齢のひきこもりで、困難をかかえるひきこもりの問題を社会的に、

「ひきこもり法案」に関する提案

第8回全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）全国大会 第6回全国支部長会議

- 6月23日第5回支部長会議で検討を以下のように反映。
 - 1 不登校の扱いをどうするか、不登校ひきこもり型も含む
 - 2 ひきこもりの概念をどうする、精神疾患、精神病の有無を問わない
 - 3 訪問だけでなく、ピアカウンセリングも入れよう
 - ひきこもり法案の提案（本部理事会第5回支部長会議に基づく）
 - ① 定義：精神疾患、精神病の有無と種類を問わず、自宅にひきこもった生活を六か月以上継続したものを「ひきこもり」とみなす。
 - ② 対応の必要性：ひきこもり問題への対応は次世代育成と日本社会の再生のカギであることと認識し、官民連携して国民の総力をあげる。
 - ③ 対象年齢：ひきこもりが青少年のみならず中年層にまで広がっている現状に鑑み、年齢の枠を設けることなく幅広く支援の対象とする。
 - ④ 啓蒙・教育の対象：1、国民を対象に幅広く、ひきこもり及び関連する精神疾患・身体疾患の理解を図る。2、精神保健福祉学・教育学・社会学等の分野において「ひきこもり学（仮称）」の教育を行う。

あり意義ある研修会が終わりました。

国の腰を入れた取り組み動き出す

これだけ多くの自治体の方が一同に会し、長年のKHJの取組みを知っていたく機会を得たことが何よりも貴重であったと思います。また、今回の会議は、厚労省から通知を出しただけのことです。

「ひきこもりサポーター事業委員会」開催（8/22）

厚労省のH25年度新事業として「長期・重篤者」への訪問支援者養成・派遣事業が動き始めました。これは故奥山さんの10年来的悲願の実現です。



厚労省は、7月23日「都道府県担当者研修会」を開催しました。（別記参照）KHJ本部は、厚労省の新方針を受け、「ひきこもりサポーター」に関する調査・養成派遣事業」を厚労省に申請。8月上旬、その申請が約1000万円の事業として認定されました。

それを受けて、8月22日、その事業の成功をめざして「KHJひきこもりピアサポーター事業委員会」（第1回）が東京で開催されました。この会議には厚労省の日野課長補佐にもオブザーバーとして5時間の会議に付き合っ

たが、全国のひきこもり担当者、交通費自腹で、これだけ多く集まったということは、ひきこもり支援を「何とかせねば」という意識の高さを感じます。そうであれば、嬉しいことです。今後、各自治体担当者から、支部に問い合わせや紹介などが入ることあると思います。どうぞよろしくお願い致します。

ひきこもり支援で名古屋2支部取材

KHJ本部では、9月1日、2日にかけて、全国KHJの中でも、ひきこもり支援の盛んな、東海なでしこの会、名古屋オレンジの会を訪問。厚労省社会福祉推進事業である「ピアサポーター養成派遣事業」のための実地調査が目的だった。初日、なでしこの会では、大協理事長、親の会運営委員6名、支援員4名にご参加いただき、貴重な数多くの声を伺うことができた。



- 法案名の提案
 - 1、ひきこもり対策法
 - 2、ひきこもり支援推進法
 - 3、ひきこもり対策基本法
 - 4、ひきこもり基本法（文責 中垣内正和）

不登校・ひきこもりの方も安心

教育理念『1/1の教育』
全生徒一律ではなく、1人1人の生徒を育みます。

生徒第一…だから
生徒1人1人と向き合う
「1/1の教育」で生徒の自信と意欲を養います。

通信制高校（広域通信・単位制）
第一学院高等学校
4月よりウィザス高等学校・ウィザス ナビ高等学校から学校名を変更し、生まれ変わりました
TEL 0120-761-080 www.daiichigakuin.ed.jp
全国76キャンパス（平成24年3月現在）

が決まりました。以下、その要旨です。

◆50人規模の「ひきこもりピアサポーター養成研修」を11月9日（土）～11日（月）2泊3日で富山県 宇奈月温泉で開催する。◆研修後、平成26年1月31日まで、受講者は家族会の会員にピアサポーター活動をする（2回程度）

●養成派遣のモデル事業委員

- ・池田 佳世（KHJ代表・委員長）
- ・伊藤 進（KHJ理事 NPO法人なでしこの会元理事長、相談役）
- ・市川 乙允（NPO法人 楽の会リラ家族代表）
- ・池上 正樹（ジャーナリスト）
- ・三膳 克弥（NPO法人 KHJにいがた「秋桜の会」代表、ピアサポーター、倉矢将（楽の会）リラ電話相談員、ピアサポーター）
- ・上田 理香（KHJ事務局、産業カウンセラー）
- カリキュラム・マニュアル検討委員
池田 佳世（KHJ代表、委員長）

●調査事業委員

- ・中垣内 正和（KHJ副代表 精神科医）
- ・牟田 武生（教育コンサルタント）
- ・高橋 晋（KHJ親の学習会講師、家族相談士）
- ・山田 孝介（名古屋オレンジの会理事長、訪問支援員）
- ・野中 俊介（KHJ事務局、臨床心理士）
- ・上田 理香（KHJ事務局、産業カウンセラー）
- ・境 泉洋（委員長、徳島大学大学院 SASS 研究部准教授、臨床心理士）
- ・野中 俊介（KHJ事務局、臨床心理士）
- ・上田 理香（KHJ事務局、産業カウンセラー）



「同じ立場だからこそ、本音が話せる、話してもらえる。話すだけで癒される」「自分が助けられた分、助けられることがあると思う」「辛い経験を経た親からの「大変でしたね」の労いの言葉は、おそろしく最も響くだろう」「共に居て、共に悩み、心で寄り添うことができるのは、親同士だから。サポーターという意識はない」「親の会でのグループワークの内容を、専門支援員と共有して、訪問を含めた支援の具体策を考えていく」。問題解決の具体策には、専門家の助けが必要だが、家族の日々の気持ちを支え合えるのは、経験者（ピア仲間）の力であることが改めて伝わってくる。

また、訪問支援にあたっては、本人の同意がなかなか得られないという困難さはあるが、「目的は本人を出すことだけでなく、親同士の家庭訪問など、挨拶だけでもいい、手土産だけでも持つていつて渡して返る、また、家まで行かなくても、近くで親が愚痴を言えるだけの訪問もあっていいのでは」等、第三者の風として、柔軟に対応できるピアサポーターの役割が語られた。本人が訪問を望んでいる場合には、事前にピアサポーターを求めているか、専門支援員を求めているか、本人に希望を聞いておくのもいいという意見や、本人と会えなくても、葉書を置いていき、親との面接で、その後の本人の様子を聞く等で、アプローチをはかっている。そして何よりも、「本人の立場に立つこと。経験者として、自分がされたくないことはしないようにする」。本人支援には、相手の気持ちを想像する力と、細やかな感性が必要であることを改めて感じさせる。

2日目の名古屋オレンジの会では、理事長の山田孝介さんと共に、3つの異なるタイプの作業所（兼居場所）を見学した後に、訪問支援同行を行った。そのうちの1つ、喫茶店NOAH（写真）は、ランチ時にはビジネスマンで大忙し。「本人の状態や能力に合わせた作業所で、就労の意欲を高めていく。本人が着詰まったときも、一進一退が可能なパーソナル型のサポーターが理想」。また、訪問支援では、幾つもの繋ぎ先を用意しておき、「チャンスとあらば動く」能動的なサポーターを実践。「本人は出たくても、どうしてもいいか、なかなか決断できないことも多い。

第三者の専門支援員がチャ



（本部：上田・野中）



教育理念『1/1の教育』
全生徒一律ではなく、1人1人の生徒を育みます。

生徒第一…だから
高認・大学受験予備校
第一学院
通学科 通信科
TEL 0120-936-358 www.daiichigakuin-kounin.jp

不登校・ひきこもりの方も安心
4月より第一高等学校から学校名を変更し、生まれ変わりました